

『哲学の探求』第31号刊行にあたって

2003年7月19日・20日の二日間にわたり、東京は八王子の大学セミナー・ハウスにて、第31回哲学若手研究者フォーラムを開催いたしました。『哲学の探求』第31号は、このフォーラムでのテーマレクチャー、研究発表に基づいたものです。

哲学若手研究者フォーラム（通称「若手フォーラム」、旧「全国若手哲学研究者ゼミナール」）は、年一回開催する合宿形式での研究発表集会です。参加者は主として大学院生およびオーバードクターで、大学、地域、専門分野にかかわらず、自由に議論し合える場を提供することを目的としています。財政的援助をまったく受けず、参加者からの参加費のみに基づき、数名の「世話人」が、参加者からの承認を受けたうえで運営に携わっています。

フォーラムの規模は年を追うごとに拡大し、2003年度は関東圏の大学はもちろん、中部・関西・中国のみならず、九州の大学からも参加していただきました。テーマレクチャーには、飯田隆氏、尾上圭介氏、土屋俊氏の三氏をお招きし、「日本語と言語哲学－意味論の形式化とその可能性」のタイトルの下、日本語に真理条件意味論を与える可能性と、その試みに対する批判について、発表していただきました。また先生方には、参加者との質疑応答の時間だけでなく、懇親会にも参加していただき、夜おそくまで議論にお付き合いいただきました。また個人研究発表にも多くの希望者が集まり、様々な分野に関し、活発な議論がなされました。また、例年中止になっていた分科会も復活し、レポーターがチザムの『知識の理論』について報告し、参加者が検討する、という時間も持つことができました。2003年度のフォーラムが、このように活気あふれる充実した研究集会になったのも、レクチャーの先生方、個人研究発表者の方々、分科会でレポーターをつとめていただいた方、そして参加していただいた皆さんのおかげです。2003年度若手フォーラム世話人を代表して、お礼を申し上げます。

2004年度の若手フォーラムは、7月17日・18日に、昨年度と同じく大学セミナー・ハウスで開催する予定です。本冊子には、テーマレクチャー「魂の教育は可能か－自由・知識・欲望－」でお話いただくお二方の講演要旨も掲載しております。なお、2004年度のフォーラムの詳細やご質問については、巻末にある今年度の各世話人までお問い合わせください。

2004年 2月29日

2003年度 哲学若手研究者フォーラム世話人代表
高村 夏輝